

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：有限会社 エフワイエル	所在地：390-0867 長野県松本市蟻ヶ崎台 24-3
評価実施期間： 平成 29 年 5 月 1 日から平成 30 年 1 月 25 日 *契約日から評価結果報告会日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050512 050542 061163	

2 福祉サービス事業者情報（平成 29 年 10 月現在）

事業所名：聖ヨゼフ保育園岡谷	種別：保育所
代表者氏名：代表者 井上 淳哉 管理者 前田 由美子	定員（利用者数）：90 名（106 名）
設置主体：（福）聖母の会 経営主体：（福）聖母の会	開設年月日：平成 16 年 4 月 1 日
所在地：〒394-0005 長野県岡谷市山下町 1-1-37	
電話番号：0266-24-1477	FAX 番号：0266-24-2355
ホームページアドレス： http://www.seibo-hoiku.com/	
職員数	常勤職員：18 名 非常勤職員：10 名
職員内訳等	保育士：24 名 看護師：1 名 栄養士：1 名 調理員：2 名 常勤職員の平均年齢：37 歳 平均在職年数：4 年
施設・設備の概要等	乳児室：1 室 ほふく室：1 室 保育室：4 室 調理室：1 室 事務室：1 室 栄養士室：1 室 遊戯室：1 室 便所：7 室 屋外遊具：鉄棒、ジャングルジム 滑り台、砂場

3 理念・基本方針

社会福祉法人 聖母の会の理念・基本方針の下に、
理念：カトリック精神に基づき、愛のある保育園で、愛のある子どもを育てます
基本方針：神様から愛され、多くの人から愛されていることを知り、自分も周りの人も慈しみ大切に作る心を育てます
と謳っている。
なお、法人の運営指針は、以下のとおりである。

- ・困っている方の最後の拠り所となるように努めます。
- ・プロとして常に資質の向上に努め、利用者中心のより良いサービスを提供します。
- ・健全運営に努め、明るく働きがいのある職場にします。
- ・地域福祉向上の為に地域との連携を深め地域の福祉拠点として貢献します。

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

キリスト教精神における隣人愛を創設の精神とし、一人ひとりのお子さまをかけがえのない存在として大切に愛し、心身ともに穏やかに成長していきますように心を込めて関わっている。

そして、0歳児から5歳児の子どもたちが深い愛情に包まれた生活の中で「人を大切に思いやる心」を育てている。

注力している三歳未満児保育では「0歳児からの共育ち保育」を目指し、豊かに生きる力の基礎を育みながら、園外保育、お泊り保育、サマーキャンプ、畑作りを通じた食育活動、施設外でのクリスマス会、英語遊びなど、様々な体験を重ねながら「生きる力」を育み、保育園を懐かしむ卒園児の思いを酌んで、年1回保育園に招いて同総会を開催するなどの企画も行っている。

5 第三者評価の受審状況

初回

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

国のガイドラインに基づき長野県の各サービス分野の評価基準等が改訂され、評価の判断基準も異なってきたので、初めにそのことについて説明いたします。

評価細目（別添1、2）に対する判断基準は以下の通りとなっています。

a：よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態

b：aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態

c：b以上の取組みとなることを期待する状態

つまり、「ある、ない」や「やっている、やっていない」という外的基準ではなく、やっている事の内容を評価員・評価機関が判断してa・b・cを決定しています。

そのため、当評価機関としてはaの場合は取り組み状況、b・cの場合は取り組み状況と改善課題を記載しています。

そして、各評価細目や利用者調査の内容を長期的、多面的、根本的に考え、事業所の全体像を把握して総評を決定・作成しています。

◇ 特に良いと思う点

○ 正常な心身の成長

聖ヨゼフ保育園岡谷は閑静な住宅街にあり、隣は有料老人ホームであり、通園の道路は狭いが静かな環境である。

また、職員の目が全ての子どもに注ぎやすい0～5才児までの定員90名で、子ども達の集団としての1日の生活・遊びも落ち着く保育園となっている。

そんな園庭の真中にはシンボルである大きなどんぐりの木があり、どんぐりを使ってのマラカスやリース作り、どんぐりクッキーの調理の機会もある。

また、卒園児には同窓会「どんぐりの木の会」が夏祭りやクリスマス会などの各種行事への招待をしており、多くの子ども・大人が参加するという。

懐かしい園で懐かしい給食を食べ、在園児の一生懸命な姿に自然と手伝いや声援を送ったり、懐かしい友達や保育士との交流もあり、保育士にとっては成長した子どもに会える喜びがモチベーションの向上にもなっている。

この園で育ったというほのぼのとした気持ちは、郷土愛へとつながると思われる。中には保育士を目指したいと思う子どもや、我が子を通わせたいと思う大人もいるであろう。実際、ここでの保育士を目指す子どももいるという。

さて、聖ヨゼフ保育園岡谷では1日の大半を過ごす園での生活の基本は食習慣であり、食事は健康で質の高い生活や成長に欠かせないものと意識しており、食育の充実が目立っている。

それは、食の習慣は0才から形成されることに注力し、正しい食習慣が身につくように食育の年間計画を立てており、食事を通して子どもの心身の発達や健康の保持を目標としている。

月1回、クラス担任や栄養士との給食検討委員会があり、食材の切り方、味付けなどを話し合っているため、残食はほとんどなく、子どもの食べる量を把握しながら徐々に増やしている。

また、毎月の身体測定の結果から給与栄養目標量を算出して献立作成を行うなど、細かな配慮もある。

さらに、毎月発行する献立表や給食だよりでは、子どもの食事の様子を紹介したり、子どもの誕生会に保護者を招いて一緒に食する取り組みも行っている。

そして、栄養士、調理員がクラス訪問をしたりして、一緒に食事を楽しむ機会も設けられており、大人との食事の様子、マナー、会話など、得るものは大きいと感心する。

毎日の給食とおやつはサンプルケースに展示され、降園の際の親子の会話も進み、給食を楽しむ工夫といえる。また、食器もセラミックを使用するなどの配慮もある。

園児は地域の産物（うなぎ・ワカサギ・トウモロコシ）を活かした郷土食を味わい、郷土への親しみを持ち、また、伝統料理の子どもの日餅つき、七夕、まゆ玉など、豊かな食の体験の機会もある。年齢に応じては野菜を育て、収穫し、育てた野菜を皆で食べるなど、栽培や収穫の喜びも得ている。

次に心の成長である。

定期的な読み聞かせのボランティアが子どもたちの楽しみであるだけでなく、豊富な良書が公立図書館の全面的な協力もあり、その充実には目を見張る。

常に本が身近にあるとともに、月2回は親子図書としての貸し出しが行われている。

当然、蔵書の入替えも定期的に行われていて、保護者会が中心となった本の管理や修繕もあり、保護者会と園との繋がりも深いと感心する。

子ども達は本や絵本を通して豊かな心が育み、保護者にとっては子どもとの触れ合いの機会の提供であり、両者の思い出の時間も増している。

子どもの正常な心身の成長の成果といえる、同窓会が今後も続くと思えるのは容易である。

◇ 特に改善する必要があると思う点

○ 目的を意識した保育活動とその周知

玄関に入るとその日の献立用のサンプルケースがあり、降園の際に分かる工夫がなされている。

また、壁には行事や場面ごとの直近の写真が掲示され、各室内には子ども達の作品が並び、園での様子を知ることが容易である。そして、各クラス入り口にはホワイトボードがあり、当日の子どもの日中活動、夕刻は明日の予定と連絡事項が確認できる仕組みとなっている。

保護者とともに保育を行う環境と理解する。

そして、子どもの送迎は保育室の担当保育士までとの決まりである。

アンケートにおいては「面倒」との回答もあるが、お互いが顔を合わせて会話ができるというメリットの周知がなされていないのは残念である。

連絡帳のみでなく、正確な情報交換、思いや意見を気軽に言える機会、更に保護者の表情を見ることで早目の保護者支援が可能など、園側の意気込みを周知する必要が感じられる。

聖ヨゼフ保育園岡谷の保育士の専門性の発揮の場である。

保育参観・運動会・夏祭りなどの保護者参加の行事の際などには、アンケートを行っている。意見などは集約されているが、結果や改善事項など保護者に伝達できていない為の不協和音が生れている。園としての姿勢を保護者にアピールして理解してもらう工夫は必要であろう。

園全体についての満足度調査は実施しておらず、今回の受審で保護者の声が多数寄せられたことは意味ある事であり、好意的な意見は、職員のモチベーションや自信・力となる。

検討が必要な意見に対しては、全職員で前向きに取り組み、そのプロセスや結果を保護者に報告することで、質の向上・信頼も増すと考えたい。

○ 日々の振り返りを活かした自己評価・事業評価の活用

各保育士の日々の振り返りが行われ、次につながる保育について考える機会となっている。

しかし、今回の第三者評価においては現状を言語化することに苦勞した模様である。

それは、日々の業務の中での情報の共有が口頭やメモでのものであり、記録する機会が少ないことが起因していると推察できる。

情報の確実な共有は記録によって叶えられるものであり、記録に残すことで後々の検証にも役立つものである。記録の重要性・統一性についての周知・理解は必要と思われる。

聖ヨゼフ保育園岡谷では園児一人ひとりの子どもに愛情をそそぐ保育実践に心掛けており、子どもの個性を理解して、できたら勇気づける、困難な場合は理由を明確にして認めつつ課題を解決していくなど、完璧な保育を目指すのではなく、子どもが失敗しながら経験・体験を積み重ねていく保育も期待される。

また、長時間保育の子どもも多く、通常保育に比べて保育士の家庭的・教育的配慮の比重も高まってきている。他児と変わらぬ生活が過ごせる、安心・安全に過ごせる、事故などに対して迅速に正確に行動できるなど、他の福祉施設とはその内容も比重も異なっている。

そのためにも標準的な実施方法、迷った時や分からない時に確認できる食事・排せつ・手洗い・散歩・睡眠などの各種マニュアルの整備、それらを共有することで一定の水準が保たれ、その上での個別化の組み合わせで、満足で安全な保育内容の提供が可能となると理解したい。

平成30年度からの保育所保育指針の勉強会の開始や、今回の評価のプロセスにおいて気づきを基に対応・改善した事柄もあり、その前向きな姿勢に今後の期待が膨らむのも事実である。

また、子どもの安心・安全のために看護師の配置を決め実施したことにより、感染症対策だけでなく、アナフィラキシーへの対応やショックの際のエピペンの使用方法などの研修も始まると期待できる。

そして、結婚・出産ではあるが保育士の退職や担任の交代も多く、保育士全てが未満児～年長児及びその保護者への対応が可能なわけではない事による弊害も、アンケート調査から推測できる。

職員が園で働き続けるにはどのような運営が望ましいのか、処遇の改善を保育士同士で話し合い環境を作ることも必要と思われる。

これらについては適宜の対応だけでなく、第三者評価の様式に沿った定期的な事業評価を全職員の参画で行うことが期待される。

そこでは、現状を言語化することで全職員の共有化と理解が深まり、衆知の集約を経た年度報告や事業計画が作成され、必要な改善が見えてくる。

事業所の体制や保育の環境、そして、必要な福祉施設職員としての研修などである。

言うまでもなく、必要なマニュアルや記録の整備は1回の苦勞である。

そして、それらの見直しができる体制を整備することで、スパイラルアップの仕組みが機能していくと考えたい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評
共通項目（別添1）
内容評価項目（別添2）

8 利用者調査の結果
アンケート方式（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

第三者評価を受審してみて、運営、経営の面で全体的に職員の理解が不十分であることが分かりました。管理者が管理する事項、全職員が共通理解すべきことを明確にし、全体に周知し、理解した上で運営されるべきだと改めて課題が見えてきました。

また、内部組織を再構築するために、保育園内の職務分掌を見直し、職務内容を明確にしていくことも必要だと感じます。管理者が職務を果たし、保育園の目指す方向に全職員が向かえる組織作りに努めたいと思います。また、事業計画については全職員が評価をし、それに基づいた計画が策定できるように取り組んでいきたいと思っています。まだできていない部分については、すぐに取り組めるもの、時間をかけて検討していくもの等を精査し、計画的に改善していきたいと考えます。

保育内容の充実や資質向上については、新保育所保育指針に沿った保育の標準化を図りながら、聖ヨゼフ保育園岡谷らしく、特色のある保育の定着を目指したいと思っています。

また、地域とのつながりを大切にし、必要な子育て支援ができるように地域にとって役に立つような保育園でありたいと思います。

そのために、適正な職員配置、安全な環境を整える事、そして何より職員が保育のプロとして専門性を持って仕事ができるように、様々な分野の研修に取り組んでいきます。

保育園を利用している保護者の方々に、保育園の理念や方針、保育内容、また保護者の支えになりたいという思いを分かりやすく伝え、双方が共感し共に子どもの成長を願える保育園となるように努めていきます。

また、園児が、心身ともに健やかに成長していくように、保育園の全職員が園児一人ひとりをかけがえのない存在として大切にし、心を込めて関わっていきます。

深い愛情の中で大きな安らぎを見いだすことができ、愛し愛される思い、命の尊さ、優しさ、感謝の心が育つことことを願い、明るく温かい保育園を目指します。